

## 年頭のご挨拶

防衛大臣 岸信夫

新年明けましておめでとうございます。

日本郷友連盟会員の皆様、ご家族の皆様に、謹んで新春のお慶びを申し上げます。また、旧年中に防衛省・自衛隊に賜りました一方ならぬご支援・ご協力に対しまして、この場をお借りし厚くお礼を申し上げます。

昨年9月に防衛大臣へ着任してから、間もなく4カ月が経とうとしています。我が国を取り巻く安全保障環境は、極めて速いスピードで変化しており、私が年前に防衛大臣政務官を務めていた当時と比べて、格段に厳しく、不確実なものとなっていることを実感しています。

北朝鮮は、我が国を射程に収める各種の弾道ミサイルを数百発保有し、核兵器の小型化・弾頭化も実現しており、これらを弾道ミサイルに搭載して、我が国を攻撃する能力を既に保有しているとみられています。

また、攻撃態様の複雑化・多様化を執拗に追求するとともに、攻撃能力の強化・向上を着実に図っており、このような能力の強化・向上は、発射兆候の早期の把握や迎撃をより困難にするなど、わが国を含む関係国の情報収集・警戒、迎撃態勢への新たな課題となっています。

中国は、透明性を欠いたまま、継続的に高い水準で国防費を増加させ、軍事力の質・量を広範かつ急速に強化しています。

東シナ海において力を背景とした一方的な現状変更の試みを継続しており、海軍艦艇の恒常的な活動の下、我が国の抗議にもかかわらず、中国公船は尖閣諸島周辺の我が国領海への侵入を繰り返しています。

このような現状変更の試みは、断じて容認できるものではありません。

また、昨今の民生分野における先進技術の著しい進歩は、将来の戦い方を一変させる可能性があります。各国は、ゲーム・チェンジャーとなり得る最先端技術に積極的に投資しています。一部の国家が、投資や学術研究、サイバー空間や工作人員等を利用して、他国からの先進技術の「獲得」を試みているなどとされています。

さらに、世界的に感染が拡大している新型コロナウイルス感染症は、我が国を含む国際社会の安全保障上の課題となっています。

このような厳しい安全保障環境の下、国民の命と平和な暮らしを守り抜くため、以下の施策を推進してまいります。

まず、我が国自身の防衛体制の強化について申し上げます。自らの手で自らを守り抜く気概なき国を、誰も守ってくれるはずはありません。我が国の安全を確保するための最終的な担保は、防衛力です。領土、領海、領空を、主体的、自主的な努力によって守る体制を抜本的に強化する必要があります。その際、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域での優位性確保は死活的に重要となっています。

この宇宙・サイバー・電磁波を含む全ての領域の能力を有機的に融合させる領域横断作戦を行う

ことができ、また、平時から有事までのあらゆる段階において、柔軟かつ戦略的な活動を常時継続的に実施できる、真に実効的な防衛力である「多次元統合防衛力」を構築してまいります。その際、防衛力の中核である自衛隊員の人材確保と能力・士気の向上による人的基盤の強化や、軍事技術の進展も踏まえた技術基盤の強化、さらには、装備品の生産・運用・維持整備にとって必要不可欠である産業基盤の強靱化といった防衛力の中心的な構成要素の強化にも努めてまいります。

次に、日米同盟の強化について申し上げます。

昨年、日米安全保障条約は、署名から六十年を迎えました。

自衛隊と米軍の協力は、平和安全法制の成立を経て、一層緊密になってきております。

今後も引き続き、日米ガイドラインに基づいて、共同訓練、米軍の艦艇・航空機の防護、宇宙やサイバーといった新たな領域における協力、装備の共同研究・開発など、引き続きさまざまな分野において両国の協力を進展させるとともに、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けてともに取り組んでまいります。

同時に、基地負担の軽減にも取り組んでまいります。

特に沖縄については、基地の負担軽減を目に見える形で実現するという政府の取組について、地元の皆様にご理解・ご協力が得られるよう丁寧にご説明し、普天間飛行場の一日も早い移設・返還などに全力で取り組んでまいります。

さらに、安全保障協力の推進について申し上げます。

「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンを踏まえ、地域の特性や相手国の実情を考慮しながら、共同訓練、能力構築支援、防衛装備・技術協力等の手段を活用し、民主主義や法の支配といった基本的価値や安全保障上の利益を共有する国々と緊密に連携しつつ、防衛協力・交流を推進してまいります。

具体的には、豪州やインド、英・仏などの欧州諸国といったパートナー国との協力を一層強化しながら、ASEAN諸国や南アジア諸国・太平洋島しょ国との防衛協力・交流に取り組み、インド太平洋地域を含む国際社会全体の安定と繁栄に貢献してまいります。

同時に、グローバルな安全保障上の課題についても、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動や、エジプト・イスラエル間の停戦監視活動等を行う多国籍部隊・監視団および南スーダンPKOへの司令部要員の派遣など、国際社会の平和と安定のための取組を推進してまいります。

以上のように、防衛省・自衛隊が直面する課題は山積しております。

私は、防衛大臣として、世の中や時代の変化を敏感に感じとり、常に柔軟な発想をもちながら、25万人の隊員の先頭に立って、我が国と世界の平和と安定のために全力を尽くしてまいります。長年、我が国の防衛に関するさまざまなご活動に取り組んでこられた日本郷友連盟の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご協力を賜われれば幸いです。

最後に、日本郷友連盟の今後益々のご隆盛と、会員ならびにご家族の皆様の益々のご健勝とご多幸を、心よりお祈り申し上げます。